

親愛なるお客様

桜花爛漫の季節となりましたが、お客様におかれましてはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

エアバス・ヘリコプターズは今年3月、米ダラスで開催されたVERTICONで、世界中のお客様から様々なマルチ・ミッション機に対する63件の確定受注を含む118件の受注を獲得しました。その中には期間中に発表されました新型小型双発機H140の74件の受注も含まれます。VERTICONでは救急医療サービスを想定した実物大のモデルが展示されました。本機が加わることによりエアバス・ヘリコプターズの救急医療サービス、旅客輸送、プライベートおよびビジネス市場向けの小型双発機のラインナップがさらに充実し、お客様に最も競争力のある選択肢をご提供できるようになります。

また、エアバス・ヘリコプターズは2024年、42カ国で455機の受注、361機の納品を記録しました。日本でも8機の受注、3機の新規機体の納入、49機のMROを提供しました。弊社を信頼し大切な機体をお任せいただいたお客様に感謝申し上げます。引き続きお客様の安全運航のためトータルサポートを提供してまいります。

一部オペレーター様にご心配とご迷惑をおかけしておりますスペアパーツ・コンポーネントの供給体制に関しましても引き続き改善すべく努力してまいります。

本紙でこれら新型機H140、2024年のエアバス・ヘリコプターズの活動について詳しくご紹介しております。ご一読頂けますと幸いです。

貴社の更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。今後とも変わらぬお引き立てのほど何卒よろしくご願ひ申し上げます。

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン株式会社
最高執行責任者・社長 ジャン・ルック・アルフォンシ

CONTENTS

製品 / PRODUCT

エアバス 新型小型双発機H140を発表
2024年度 ヘリコプター販売の継続的な成長
夜間の消防活動

サービス / SERVICE

ウィンドシールドへの保護フィルムの貼り付け

訓練 / TRAINING

2025年度 設定訓練コース

航空安全 / AVIATION SAFETY

1. 安全推進活動
2. 安全情報
3. ホイストの安全に関する小冊子

インフォメーション / INFORMATION

イベント出展情報



H140 キャビン

エアバス 新型小型双発機H140を発表



2025年3月11日、エアバス・ヘリコプターズは、テキサス州ダラスで開催されたVERTICONでH140を発表しました。このマルチ・ミッション・ヘリコプターは、性能、費用対効果、乗客・乗員の快適性において、小型双発機の水準を引き上げるものです。H140は3トンクラスの回転翼機で、エアバス・ヘリコプターズが現在提供している救急医療サービス、旅客輸送、プライベートおよびビジネス市場向けの小型双発機ラインアップを拡充させるものです。H140の運航開始は、救急医療サービス分野向けに2028年を予定しています。

エアバス・ヘリコプターズのBruno Even最高経営責任者（CEO）は、以下のように述べています。「小型双発機セグメントに新しいヘリコプターを導入することは、Bluecopterのような当社の研究開発プログラムを活用し、進化するお客様のミッション要件に応えるという当社のコミットメントの証です。我々はH135の顧客と手を携えて、彼らの要求事項をH140の効率的な設計に落とし込みました。H140は、クラス最高のペイロードと航続距離を実現するために最適化されたエンジン性能に合わせて設計され、より広いキャビンスペースでミッションの遂行をサポートします。我々は、お客様に最も競争力のある選択肢を提供できることを誇りに思います」

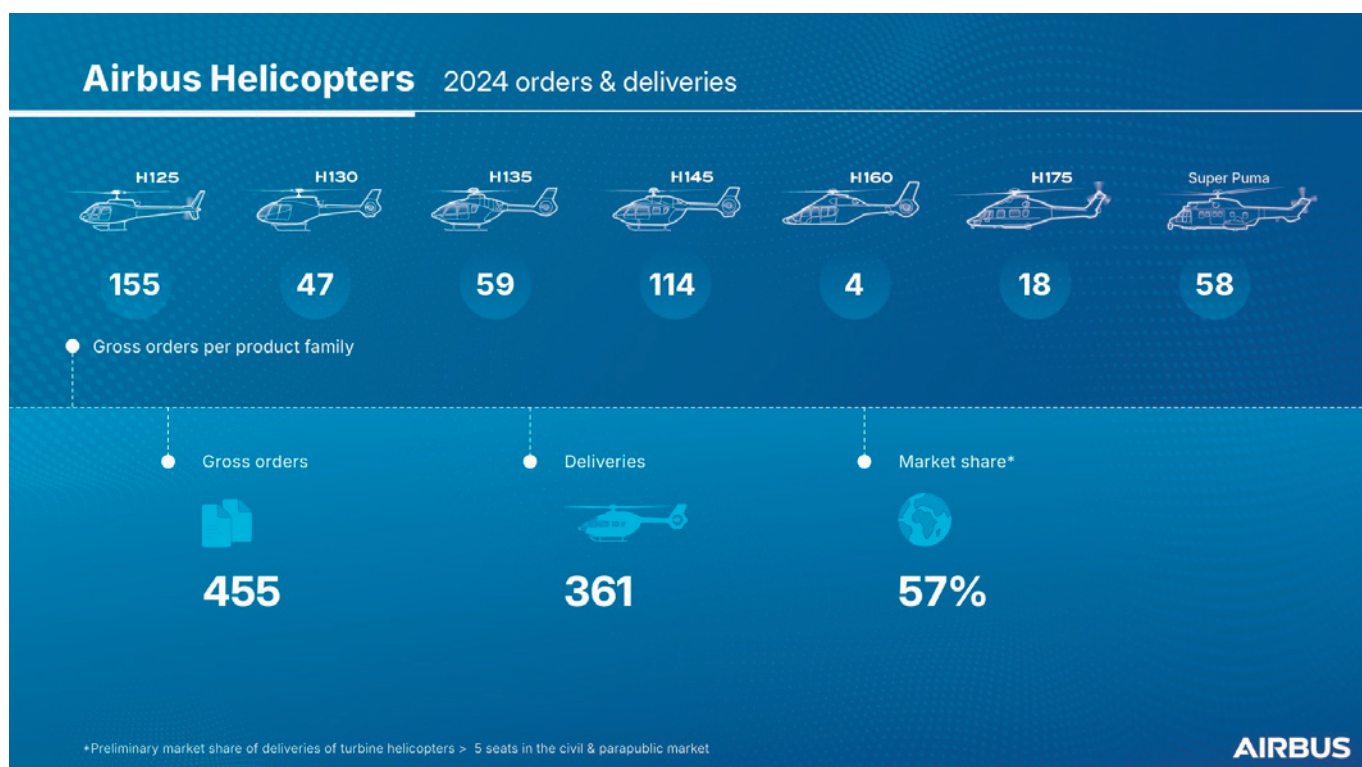
VERTICONでは救急医療サービスを想定した実物大モデルが展示されました。H140は、騒音レベルを低減する最適化されたフェネストロンを備えた新型のT字型テールブーム、5枚羽根のベアリングレス・メインローター、新型の強力なエンジンなど、幅広いイノベーションを特徴としています。このヘリコプターはまた、より広いキャビンスペース、大きな窓、最適化されたキャビンレイアウトを備えており、最大6人の乗客を快適に収容することができます。大型のクラムシェルドアと高いテールブームにより、H140の後方搭載能力は、集中治療用や搬送用保育器などさまざまなタイプのストレッチャーが使用可能で、また大型のスライドドアはキャビンへのアクセスを容易にします。

H140はサフラン社のArrius 2E 700shpエンジンを搭載し、クラス最高の積載量と航続距離を誇ります。このヘリコプターの2基のエンジンはデュアル・チャンネルの全権デジタル・エンジン制御（FADEC）システムによって管理され、全エンジン作動（AEO）時の前例のないレベルの性能と、片発不作動（OEI）時の大きなパワーリザーブを保証しています。

新型H140はまた、2019年にH145に導入されたのと同じ5枚羽根ローターシステムを採用しました。ベアリングレスのメインローター構造は、メンテナンスを簡素化し、整備性と信頼性を向上させ、乗員と乗客に最高レベルの快適性を提供します。H140のオペレーターは、機体とエンジンの整備スケジュールを調和させ、点検間隔を長くすることを可能にする、最適化された整備プランによりヘリコプターの運用コストと整備コストを低減することができます。今後、合計4機のプロトタイプ機を用意する予定で、最初の機体はすでにドナウヴェルトの拠点で飛行試験が行われています。

H140には、H135、H145、H160、H175にも搭載されているエアバス・ヘリコプターズのアビオニクス・システム、Helionixが搭載され、4軸オートパイロットに加え、状況認識を高める革新的なコックピット・レイアウトを提供し、パイロットの作業負担を軽減し、ミッション中の安全性を高めます。

2024年度 ヘリコプター販売の継続的な成長



エアバス・ヘリコプターズは、2024年に42カ国、182の顧客から455機の受注を記録し、小型および小型双発、大型ヘリコプターが好調で、市場が着実に成長していることを実証しました。2024年の納入機数は361機で、民間および準公共市場でのシェアは暫定的に57%となりました。

エアバス・ヘリコプターズのBruno Even 最高経営責任者(CEO)は、「エアバス・ヘリコプターズの2024年の受注機数は、2年連続で10%近い伸びとなり、複雑なグローバル環境において安定した成長を示しました。2024年も引き続きエアバス・ヘリコプターズに信頼を寄せてくださったお客様に感謝申し上げます」とコメントしています。

スーパーピューマは、ドイツ連邦警察、日本の海上保安庁、オランダ国防省、ルーマニア国防省から58機を受注し、民間および準公共と軍用の両市場で好調に推移しました。2024年は、ブロック1と呼ばれるNH90の包括的なアップグレード、フランス特殊部隊ではスタンダード2の飛行試験が開始され、また、スペイン空軍には最初のスタンダード3が納入されました。H145およびH145Mは、ブルネイ空軍やベルギー国防省、インドネシア空軍、バーレーン警察航空司令部、アイルランド国防省など、多くの新規防衛・安全保障の顧客と契約を締結しました。

「防衛と安全保障はエアバス・ヘリコプターズの戦略的優先市場です。私たちは、2024年にハリケーン「ヘレン」後の災害救援活動を支援した米国州兵のラコタや、スペイン・バレンシアの洪水におけるH135とNH90のように、国を守り貢献可能なヘリコプターでお客様をサポートできることを誇りに思っています。また、FlexrotorをUAS(無人航空機システム)のポートフォリオに追加し、VSR700とH130でCUC-T(有人機と無人機の連携)能力を実証し、専用のコンセプト・スタディを通じて欧州の次世代ヘリコプターの基礎を築いています」とBruno Evenは続けました。

2024年はユニークな複合ヘリコプターRACERの初飛行およびわずか7回の飛行で時速407キロの目標を達成し、またCityAirbus NextGenの初飛行がドナウヴェルトで行われました。民間および準公共市場では、H175が2025年の認証取得に先立ちカナダとノルウェーで除氷飛行試験キャンペーンを完了し、H160は世界中でEIS(運用開始)が続き、現在30機以上が運用されています。

「お客様サポートは不可欠であり、グローバルな事業展開がそれを達成するための重要な要素です。2024年、私たちはそれを証明するいくつかのマイルストーンを迎えました。例えば、カナダ初の防衛関連顧客へのH135 19機の画期的な契約、また、英国における事業が50周年を迎え、オックスフォードに新施設が完成しました。さらに、タタ社との提携によりインドにH125の最終組立ラインを建設し、国際的な事業拡大を継続する予定です」とBruno Evenは続けました。

また、マリニャーヌ、アルバセテ、ドナウヴェルトでの自社開発試験飛行と訓練飛行において、持続可能な航空燃料(SAF)の使用を20%近くまで引き上げ、オックスフォードの施設でもSAFの使用を開始しました。

夜間の消防活動

搜索救助、パイロットの海上移送、その他さまざまなチャーター業務に加え、真夜中に消火活動が必要な場合、タロン・ヘリコプターズ(カナダ)は適切な装備で対応しています。チーフパイロットのJarrett Lunnは、タロンに11年以上勤務しています。彼は消火活動や火災軽減に暗視ゴーグル(NVG)がどのように貢献するか説明してくれます。

私たちはバンクーバーを拠点としていますが、夏の間は例年、ドーファンは消防契約でアルバータに向かいます。トラックとトレーラーに部品や備品、工具など必要なものを積みこみ、夏の間は基地から離れた場所でヘリコプターと一緒に生活します。



火災発見

消火活動やその他の夜間活動(搜索救助やパイロットの海上移送など)を行うためには、夜間に明かりのない場所を飛行できるNVGが必要です。NVGを使用することで、行き先や危険を確認し、夜間の低空を安全に運航することができます。私たちは空港から空港へ高高度の計器ルートを飛行しているのではなく、低空で作業するので、NVGを使えば、周囲の地形や危険を目視することができます。木や枝、池などあらゆるものが見えます。時には給水箇所を探しているところにヘラジカの家族がいたため、ヘラジカが離れるまで旋回して待機したこともありました。

パイロットも、訓練を受けたアルバータ州の山火事消防隊員もNVGを装着しているので、火災の状況や地形を把握することができ、GPSや無線の周波数の設定、そして最も重要なこととして、

高速道路脇で火災が発生したという一般市民からの通報から落雷検知システムからの通報など、派遣先の優先順位を決めるために州と直接連絡を取り合います。私たちは活発な雷雲がないことを確認し、嵐の中を飛行しないようにします。落雷があった場所の後を追いつながら、出火地点が無い探すのです。



即応の影響

火は昼夜を問わず燃えます。気候変動の影響により近年は、火災の発生時期が長くなり、火災規模が大きく活発になっています。例えば、日没後に火災が発生した場合、航空機は日の出までの8～10時間は消火活動ができません。しかし、NVGを使えば、その火災にすぐに対応することができます。初期消火活動は夜間オペレーションにおいて非常に重要な活動。火がある程度の規模になるとそれを抑えるのは困難ですが、小さいうちに捕えることができれば多くの場合、鎮火することができます。

アルバータ州とのNVG消火活動の契約1年目、最初の2週間は、アルバータ州の消火隊員が新しいヘリコプターとその能力を知るためのトレーニングに充てられました。訓練初日の夜、私たちの訓練センターから約100NM離れた場所で火災が発生し、出動要請がありました。私たちは荷物を積み込み、訓練ではなく実際の火災現場に隊員を連れて行き、NVGを使用しました。現地に到着して地上チームと無線で確認

すると、火は市街地に入り込んでいて、実際にその火災に巻き込まれた家屋が2軒ありました。私たちは、上空から現地の地上部隊と協力して火に放水し、どこに火災があり、どこが鎮火されたかを知らせ支援しました。訓練のはずが、実践活動になった夜でした。今回の活動によりNVG消火活動は多くのことを成し遂げられると実感したのです。

AIRBUS

HELICOPTERS

サービス

SERVICE

ウィンドシールドへの保護フィルムの貼り付け

ガラス製ウィンドシールドに発生するクラックは、肉眼では見つけにくい砂や小石の衝突による小さな傷が原因のことがあります。砂や小石によるウィンドシールドの傷を防止し、突然のAOG状態となる可能性を減らすため、SBによって保護フィルムを貼り付けることができます。飛行場等の整備された場所以外での低空飛行が多い場合に特に有効ですので、実施を推奨いたします。

適用可能機種及びSB番号：

- AS365:SB AS365-53.00.27 (MOD OP56B30)
- EC155:SB EC155-56-008 (MOD OP56B30)
- AS332:SB AS332-56.00.11 (MOD OP28438)
- EC225:SB EC225-56-009 (MOD OP28438)



2025年度 設定訓練コース

2025年3月末時点で予定する2025年度の訓練コース空き状況をご案内いたします。ご興味のあるコースがありましたらお問い合わせをお願いします。

(お申し込みには受講要件を満たしている必要がございます。また最少催行人数は2名となっておりますので、これを満たさない場合は訓練を実施しない場合がございます)

各コースとも、訓練開始までに空席がある場合、弊社社員が聴講生として参加する場合があります。ご了承ください。 (座学の最大受講人数は8名を基本としております)

■ 2025年度 操縦士訓練

| コース名 | | 期間(日程は変更となる場合がございます) | 受講要件 | 申込可能 | 備考 |
|----------|---------------------------------|---|------|------|------|
| H135 | ガイドライン訓練 (Helionix機向け) | 学科：2025年11月5日～11月14日予定 | B | ○ | (注2) |
| H135 | 型式限定変更座学訓練 (P2+→Helionix機向け) | 学科：2025年12月1日～12月5日予定 | B | ○ | (注2) |
| AS365N3 | 型式限定変更座学訓練 | 学科：2025年5月7日～5月16日予定 (5月10日(土)も訓練を実施します) | A | ○ | (注1) |
| AS365N3+ | 型式限定変更座学訓練 | 学科：2025年8月19日～8月28日予定 | A | ○ | (注1) |
| H160 | 型式限定変更座学訓練 | 学科：2025年4月14日～4月25日予定 | A | ○ | (注1) |

受講要件:

A：有効な技能証明書、航空身体検査証明書、特定操縦技能審査および陸上多発タービン機の型式限定

B：有効な技能証明書、航空身体検査証明書、特定操縦技能審査および陸上多発タービン機

(注1)：座学訓練終了後、海外FFSを使用した訓練、お客様基地でお客様保有の機体を使用した実機訓練や実地試験支援をご希望の場合は別途お問い合わせください。その場合、訓練生は型式限定の技能証明(T類)を保有していることが前提となります。

(注2)：お客様の実機を使用した実技訓練の受講を希望される場合は別途お問い合わせください。

■ 2025年度 整備士訓練

| コース名 | | 期間(日程は変更となる場合がございます) | 受講要件 | 申込可能 | 備考 |
|----------|----------------------------------|---|------|------|--------------|
| H135 | ガイドライン訓練 (T3/P3まで) | 座学：2025年7月21日(月)～7月30日(水) モックアップ実技および FFS試運転： 7月31日(木)～8月8日(金) | A | ○ | (注1) |
| | ガイドライン訓練 (T3/P3まで) | 座学：2025年10月13日(月)～10月22日(水) モックアップ実技および FFS試運転： 10月23日(木)～10月31日(金) | A | ○ | (注1) |
| | メーカー標準 (OEM) 訓練 (Helionix機向け) | 学科：2025年8月25日(月)～9月3日(水) モックアップ実技：9月4日(木)～9月12日(金) | A | ○ | (注1) (注2) |
| AS365N3+ | メーカー標準 (OEM) 訓練 (座学+モックアップ実技) | 学科：2025年5月12日(月)～5月30日(金) モックアップ実技：別途お問い合わせください。 | A | ○ | (注1) |

受講要件:

A：二等航空整備士(回)タービン機等級限定以上

(注1)：座学訓練のみ受講を希望される場合は別途お問い合わせください。

(注2)：試運転訓練をご希望の場合はお客様基地でお客様保有の機体を使用しての実施となりますので、別途調整となります。

お問い合わせ先：カスタマーサポート部 西岡(hisao.nishioka@airbus.com)

または各CSM (カスタマーサポートマネージャー) まで



1. 安全推進活動

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパンは、ヘリコプターメーカーとして安全推進活動を展開しています。関連省庁と連携した各種取り組み(航空局主催の「小型航空機に係る安全推進委員会等)に積極的に参画し、安全運航の確保に貢献すべく取り組んでいます。

また、安全文化の醸成活動として、航空安全ロードショー(ヒューマンファクターズ訓練/コンサルティング)を開催しています。2016年以降、計157回開催しており、2025年においても、引き続き取り組んでまいります。

安全文化の醸成活動については、お客様のご要望等をお聞きしながら、計画及び開催をさせていただきますので、ぜひお気軽にお問い合わせください。

2. 安全情報

エアバス・ヘリコプターズは、EASA Community Networkのメンバーとして安全推進活動を展開しており、当該サイトに世界で発生した事故やインシデント等に基づいた重要な教訓・安全情報等が紹介されています。

世界的、また国内の事故分析において、多くの事故がSpecial Operation中に発生しており、今回は、”**ESPN-R Helicopter Hoist Pilot Training Guide**”で紹介されている内容(概要)について紹介させていただきます。今回の内容(ホイスト操作に関連する訓練)をご参考にしていただければ幸いです。

Helicopter Hoist Operations (HHOs)

ヘリコプターでのホイスト操作を伴う活動において、乗組員内(パイロット、ホイスト操作員、救助員、医療関係者等)で責任とリーダーシップが状況によって変化します。そのことから、各クルーは同じ目標を達成するための1チームとして考えられ、お互いの知識、スキル、能力に相互依存して活動しています。

The Pilot Training Guide

本ガイドは、HHOsパイロットへの様々なトレーニング段階に焦点を当て、通常及び緊急時の手順、乗組員のリソース管理(CRM)、航空操縦技術など、HHOの重要な側面をカバーし、「他の乗組員とのやり取りやミッションの特殊性を考慮すること」を目的としています。

このガイドには法的拘束力はなく、経験豊富なホイスト操縦士とホイスト操作員のグループによって開発された推奨的なガイドラインです。

HHOは非常に困難で一定のリスクを伴っており、安全性と効率性を高めるためには、ホイスト操作に特化した適切なパイロットトレーニングが業界内で推進され、促進される必要があります。

結論として、パイロットが高度で改善された正確なスキルを醸成することにより、ヘリコプターホイスト操作の安全性と効率性が必然的に向上することになります。

本ガイドは下記の様々なセクションが、陸上と海上の両方の状況に分かれて取り上げられています。

● HHOパイロットの前提条件

● HHOパイロットの基本的なトレーニング(理論的基礎)

- 適切な飛行マニュアル、ホイスト安全操作のための基本的な情報と指示の提供
- 通常、異常、緊急の状況下での理論的なホイスト操作手順
- ヒューマンファクター関連
 - ・ ミッションの準備
 - ・ 飛行リスク評価ツール (FRAT)
 - ・ リスク軽減(TEM - 脅威とエラーの管理)、ブリーフィング/デブリーフィング
 - ・ チェックリスト
 - ・ 検証方法 (チェック、ダブルチェック、クロスチェック)
 - ・ リスクの回避方法等
- ホイストシステムの技術的理解、運用プロセス、標準化された通信の知識
- ホイスト操作時の指揮官としての組織力(CRM、搭乗員調整力等)



NOVEMBER 21, 2024

together
4safety

HELICOPTER HOIST OPERATION PILOT TRAINING GUIDE - V 1.0



● HHOパイロットの基本的なトレーニング(実技/飛行)

○訓練生パイロット

- ・ホイストの操作手順に精通し、通常、異常、緊急の状況下での運用を可能とする訓練
- ・開放および閉鎖した場所でのNHEC(Non-Human External Cargo)やシングルおよびダブルHEC(Human External Cargo)のホイスト操作

● HHOパイロットのオペレーター オンタイプトレーニング

○それぞれの運用に必要な訓練として、陸上、海上、NVG(Night Vision Goggles)等のトレーニング

● NVIS(Night Vision Imaging System)

○オペレーションマニュアルのNVIS手順に基づく運用訓練

● 任務振り分けの条件

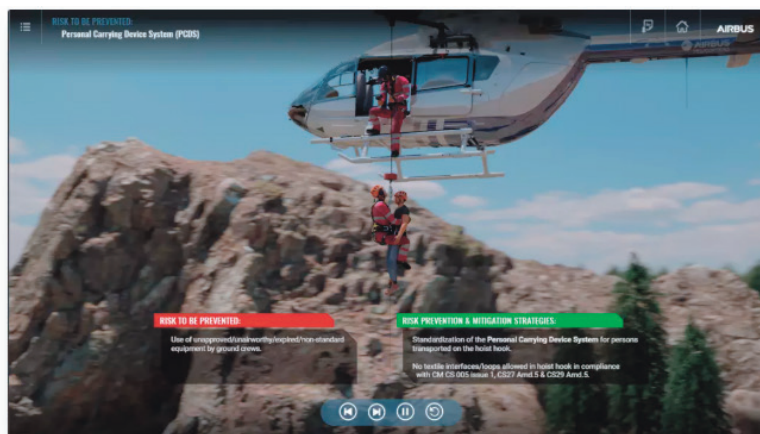
● 最新性

● 定期的なトレーニングとチェック

3.ホイストの安全に関する小冊子

エアバス・ヘリコプターズは、European Safety Promotion Network Rotorcraft (ESPN-R) によって開発された内容に基づき、ホイスト操作に関するeラーニング(10か国語版)を準備しています。この中では、パイロット及びホイストオペレーターに認識していただきたい「主要なリスクやホイスト操作で避けるべき行為等」が説明されており、下記のリンクから参加できますのでご活用ください。

<https://www.airbus.com/en/safety/safety-in-operations/helicopters-safety-in-operations/safety-multimedia-e-learning/hoist>



Choose your language

German version

English version

French version

Spanish version

Italian version

Japan version

Korean version

Portuguese version

Russian version

China version

<担当者から一言>

今回は、Special Operation関連として「ホイスト操作に関連する訓練」をクローズアップしました。最近、異常気象等の影響で多くの災害が発生し、その度にホイストを使用した救助活動等の機会も増えており、今回の記事が皆様の安全運航の一助になれば幸いです。また、上記の情報のほかにも多くの関連資料、ビデオがEASA Community Networkサイトで紹介されていますので、是非ご活用ください。

各種取り組みや安全情報のご依頼やご質問等がございましたら、竹内までご連絡ください。
(竹内(エクスターナル・セーフティ・オフィサー)078-306-4476)



イベント出展情報

- ・ DSEI Japan 2025 (2025年5月21日～23日) <千葉県 幕張メッセ>